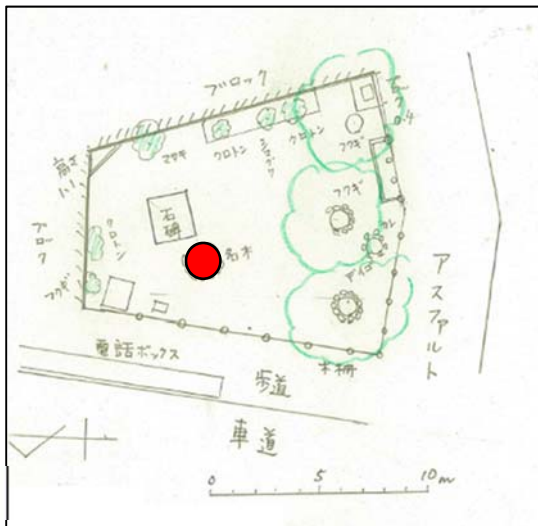


東江のミフクラギ



認定番号 113

樹種名	オキナワキョウチクトウ	科名	キョウチクトウ科	方言名	ミフクラギ	学名	<i>Cerbera manghas</i> L.			
形状・寸法	樹高 11.8 m	胸高周囲	2.1 m	根本周囲	3.3 m	樹幹占有面積 135 m ²				
	枝下高 2.2 m	枝張	東 6.8 m	西 6.5 m	南 5.6 m	北 7.3 m	最大樹冠幅 13.3 m			
通称	東江のミフクラギ		樹齢	200 年(推定)	所有者	1 国 2 県 ③ 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明				
所在地	名護市東江159				状況	1 単木 ② 樹叢中 3 樹林中 4 その他				
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 ⑦ 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 (史跡)									
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 ③ 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹(村文化財 1997年3月指定) 6 名木 7 その他 8 なし				気象条件	月				
						平均気温(°C)	16.0	16.1	18.6	21.8
周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 ④ 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()				(最寄りのア ダスター)	平均風速				
						風向	NW	S	SSW	SSW
土地傾斜	① 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:				2015年	月				
						平均気温(°C)	28.8	28.6	27.5	24.8
土壌	① 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()				地点:名護	年平均気温				
						年降水量	1595 mm	最高気温 33.9 °C 最低気温 7.7 °C		
基岩・母材					潮風の影響	1 なし ② ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)				
地形	1 山地 2 丘陵地 3 台地 ④ 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪 窪 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他					日照条件	① 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良			
	土性	① 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない				周辺樹木 の影響	1 なし 2 わずかにある 3 ある ④ かなりある 5 深刻((状況))			
根元及び周囲の植生		草本 1 密生 2 疎 ③ なし 低木 1 密生 2 疎 ③ なし				周辺樹木 との関係	1 影響なし 2 僅かに影響を受けている ③ かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている			

管理状況	1 柵 a 有 ② 無 (有の場合の高さ m、材質) 柵内面積 (m ²) 設置年	
	2 支柱 a 有 ② 無 3 剪定 a 強 b 弱 ③ 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 ② 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 ② 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 ③ 有 b 無 7 避雷針 a 有 ② 無 8 定期的な草刈・掃除 ③ 有 b 無 9 その他	
過去の治療歴と内容		
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 ② 無 5 いわれの内容 6 不明	
視認性	1 遠方からも目立つ ② 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)	
特記事項	1 動物生息 a 有 ② 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 ③ 有 b 無 (有の場合植物の種類 オオイタビ) 3 見学・参観者 a 有 ② 無 (有の場合その数) 4 その他 観光スポット	

地上部の衰退度判定（認定番号113）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、シヨウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 0.55

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

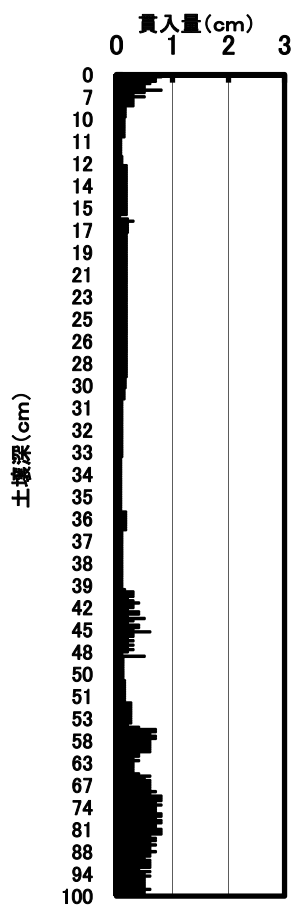
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係	○			
根返り		○		
幹折れ		○		
大枝折れ			○	
中・小枝落下		○		
幹の傾斜の増大	○			
その他				

土壤調査結果（認定番号 113）

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	10YR4/3	0-3	—	砂土	8.7	1.4
II	10YR4/3	3-26	—	砂土		
III	10YR4/4	26-	—	砂土		

土壤貫入量結果



東江のミフクラギ

部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> ・砂質の土壌で、通気性、排水性に富む。 ・土壌深は南側では 1m 以上あり、深さ 10～40 cm に著しく固結した層を挟む。 ・北側は深さ 45cm 程度で、やや固結している。 ・pH、EC はそれぞれ南側で 8.8、0.87(dS/m)、北側で 8.7、1.4(dS/m)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・踏圧防止策を検討する。
根	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼棒貫入の異常は認められない。 ・大枝の付け根下部に縦 5cm、横 7cm、深さ 12cm の空洞(30 年程前に石を積めて塞いだ) ・樹皮に、上部の空洞の影響と思われる捲れが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空洞内に良質の土壌を詰め、内部の不定根の誘導、発育を促すことを検討する。
幹	<ul style="list-style-type: none"> ・幹は双幹である。進行中の重篤な腐朽は確認できないが、基部～幹の分岐部まで空洞化し、芯に達する。 ・南西側高さ 4m に深さ 40cm の芯に達する空洞が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根、幹の支持力が懸念される。3 本程度の支柱の設置が必要と思われる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・高さ 3.9m の位置にある幹の分岐部に亀裂が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幹の分岐部の割裂を防止するため、幹下部にバンドの設置を検討する。
枝	<ul style="list-style-type: none"> ・大枝基部に亀裂が認められるがワイヤロープで補強されている。 ・大枝の中央部に空洞が見られる。 ・中枝の分岐点が折損し、空洞となっている。 ・枝の大小を問わず、樹皮の傷が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・腐朽枝(特に基部)の切除を検討する。 ・大枝への支柱の設置を検討する。
葉	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に異常は認められないが、端梢部先端の葉量が若干乏しく、小型化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・幹、枝とも空洞化が著しい。安全対策は特に必要と考える。 	

